

夷王山まつり、上ノ国町 スポーツセンターにて開催

6月16日、本町春の一大イベントである夷王山まつりが、上ノ国町スポーツセンターにて開催されました。荒天の予報から、前日に予定されていたまいつ行列が中止となり、会場を夷王山から、スポーツセンターに移して行われ、玄関前広場には出店が並び、アリーナでは恒例のカラオケ大会なども行われました。また、この日のメインイベントは、なんとといっても昨年の紅白歌合戦に出場された演歌歌手・丘みどりさんと、同じく出場経験を持つ角川博さんによる歌謡ショーで、スポーツセンターアリーナの特設会場を埋め尽くさんばかりの観客で賑わいました。



町民体育館が火元！ 解体施設を利用した本格訓練

5月26日、上ノ国消防署と上ノ国町消防団による火災想定合同訓練が、旧町民体育館前にて実施されました。この訓練は、近日中に解体工事が予定されていた旧町民体育館を用いて、2階から出火したという想定で、消防署と各分団の連携練度を高めようという行われたものです。消防署と消防団は、火元となつて2階に放水を行うため、消火栓から給水車、放水ホースを各分団員が分担して連結し、最後は外壁のハシゴから出火部分に放水するなど、一連の流れを確認しました。今回は大留地区が火元というところで、第1（上ノ国）・第7（大留）分団が訓練を行いました。今後は各地域の施設を利用し、1年を通して全分団で同様の訓練を行っていくとのことでした。



ふるさと偲び、語らいに花

6月22日、札幌近郊在住の本市出身者で構成される『札幌上ノ国ふるさと会（福島久平会長）』の総会懇親会が札幌市内のホテルで開催され、会員や本市からの参加者を合わせて約62名が参加し、旧交を温めました。総会では、福島会長や本町から出席した工藤町長、片石副議長が挨拶を行い、この1年のまちの変化や、新たな事業などが報告され、お互いの近況を交換しました。また、懇親会では、出身地区ごとのテーブルで再会を祝いながら交流が行われたほか、物産販売コーナーでは、ふるさとの味が地元から持ち込まれ、昔懐かしいかたこもちや根ホッケのほか、ガサエビを用いた新商品などを多くの方が買い求め、故郷を懐かしんでいた。



鮎の放流30年 地道な資源維持と釣り楽しみ

5月23日、町内で活動する天の川鮎愛好会（三浦實会長）によって、鮎の稚魚7千尾が天野川に放流されました。この活動は、鮎資源の増大と維持を行うことで、継続的に鮎釣りを楽しもうと、同愛好会が毎年行っているもので、放流は水温が温かくなる5月に、秋田県で買った稚魚をフェリーとトラックで輸送し、天野川や上の沢川の上流で放流しています。この活動については、三浦会長にお話を伺ったところ、『費用は全ギリで運営していますが、毎年ギリギリで目的とした観光客の方も来られますので、これからも続けていきたい』と話し、活動に意欲を見せるとともに、夏の鮎釣りシーズンを楽しみにしているとのことでした。

